

JR西労組運動における女性の活躍も推進

労協協通を通じてJR西日本における男女平等参画と女性の活躍推進が進む一方で、



職場の系統を越えた女性役員の意見交換の場「女性ネットワーク委員会」

JR西労組においても取り組みを強化してきました。2017年度では、女性組合員は全体の11%強の3,300名が在籍し、約370名が何らかの機関の役員に就任しています。

不規則勤務が主体で、仕事と家庭の両立の障害の多いJR西日本本職場において男女平等参画や女性活躍推進をさらに進めるためには、女性のJR西労組運動への主体的な参画が欠かせません。2016年より「女性ネットワーク委員会」を開催するなどして、本部と地本が連携し、女性役員の情報提供や仲間づくりを通じて、さらなる女性役員の拡大と参画を進めています。

「安全考動計画2017」の実践と検証の活動を展開



福知山線列車事故から10年へもう一度現場の安全を検証しよう

2013年4月より「安全基本計画」に続く5年間の「安全考動計画」がスタートしました。策定にあたり、JR西労組は組合員の意見や職場の実態を基に会社に提言し、労使協議を通じてこれを反映させながら取り組まれました。新計画には、「お客様が死傷する列車事故ゼロ」「死亡に至る鉄道労災ゼロ」「ホームにおける鉄道人身傷害事故3割減」「踏切障害事故4割減」「部内原因による輸送障害5割減」という数値目標が初めて設定されたほか、リスクアセスメントのレベルアップなど課題を絞った実効性ある内容



毎年、福知山線列車事故当日の4月25日に開催される「事故を決して忘れず、安全を誓う集い」

会、安全デイスカッション、協力会社訪問、全組合員を対象とした意識調査や分会を対

象とした検証アンケートなど、計画の実践と検証の取り組みを進めました。また、事故から10年が経過した2015年には、職場における行動の指針とするためのJR西労組「安全提言」を策定して実践に取り組んでいます。このほか、毎年4月25日には「事故を決して忘れず、安全を誓う集い」を開催し、事故を教訓に安全最優先の意識と行動を共有する取り組みを継続しています。

このほか、2006年1月の伯備線接触事故の反省と教訓を踏まえて労使協議を進め、2015年5月に「接触事故防止準則」が抜本改正のうえ施行されました。これにより、線路内作業は原則的に線路閉鎖など列車を進入させない状態で行うこととなり、列車間合いの作業を大幅に制限しました。また、2016年4月からは報告文化をさらに高めるために、私たちの提言も反映し、ヒューマンエラーに関わる事故、輸送障害、注意事象を懲戒対象から外すよう制度が見直されました。

5年ぶりのベア獲得と4年連続でのベア実施

2014春季生活闘争でベアを実施することができました。この間、きめ細かな春季生活闘争ニュースの発行と掲示、学習会や決起集会の開催などに努め、若手を含めた組合員がベアの重要性を理解し、春季生活闘争の諸行動への参加が進んでいます。

春闘NEWS JR西労組 NO.21
2017年春季生活闘争中央闘争委員会 2017年3月15日
2017年度春季生活闘争の中心となる「ベア」の取組を伝えるための情報誌です。組合員への配布は、各支部・分会を通じて行われます。

厳しい逆風の中、4年連続のベア獲得!
純べア750円、年間総給5.44ヶ月!

【主な実施内容】
○純べア750円(会社員の総給増進に750円を加算)
○年間総給増進率4.4ヶ月(前年度4.4ヶ月より0.1ヶ月増進)
○2017年度(2017年4月1日～2018年3月31日)の労使交渉で達成された賃上げ率(2017年度は2.0%)を達成
○労使交渉で達成された賃上げ率(2017年度は2.0%)を達成
○労使交渉で達成された賃上げ率(2017年度は2.0%)を達成

鉄道を活かした地域共生へ政策課題への取り組みが進む

人口減少や地方の過疎化、道路整備の進展などの環境変化とともに、これまで事業者任せであった公共交通のあり方についての社会的な問題意識が高まってきました。

2013年11月には、三日月衆議院議員をはじめJR連合国会議員懇談会など民主主義議員を中心に制定に取り組んできた「交通政策基本法」が成立し、先進的な自治体を中心に地方の鉄道や公共交通、まちづくりのあり方が議論されるようになりました。

こうした中、会社は極端に利用の少ない三江線(江津・三次、108.1キロ)について、2015年10月、沿線自治体に持続可能な公共交通の実現に向けた検討を申し入れ、地元との期成同盟会との協議が開始されました。その後、バリエーション豊かな交通手段も含めて協議を進めた結果、2016年9月、会社は三江線が鉄道の特性を発揮できていないこと、地元ニーズに合致

一方、2003年11月に可成り三段峡間が廃止された可成り線は、当時JR西労組が自治体と開催した意見交換会でも出されていた区間間の存続について検討が進み、2017年3月に可成りあき亀山間(1.6キロ)が復活することとなりました。

北陸新幹線金沢開業と三セク会社の発足
2015年3月14日に北陸新幹線が金沢まで開業しました。輸送量は開業前の約3倍となり、北陸の地域活性化に大きく貢献しています。山陽新幹線でも働く組合員らが金沢地区からの研修の受け入れや開業後の支援に積極的な協力いただき、グループを含めた組合員の努力によって安全輸送とサービスが提供されています。

この間、グループ労組でも春季生活闘争の大きな成果を収めており、2017年には過去最高の30組合がベアを獲得し、このうち9組合はJR西労組を上回る金額となるなど、相乗効果が高まっています。

新幹線開業に伴い、北陸本線は「えちごトキメキ鉄道」「あいの風富山鉄道」「IRいしかわ鉄道の第三セクター3社に移管され、約360名の組合員が出向し運行に携わることになりました。本部は山陽地区などからの支援者や三セク会社への出向者に対する手当や人事運用などの条件整備を進めるとともに、金沢地本では新幹線職場や三セク会社の分会の機関連絡を行い、組合員の世話役活動の推進に取り組みしました。

また、北陸新幹線をはじめ収入動向が好調であることから、10月に組合員の労苦に配慮する一時金を要求、12月に5万円(契約社員3万円)の支給を実現することができました。

「交通政策基本法」成立

2002年民主党から議員提案された交通基本法案は、民主党政権下において審議されてきたがJR西労組もJR連合とともに法案成立に向けた協議に取り組んできました。2011年3月の東日本大震災の影響もあり一旦廃案を余儀なくされた。自民党政権に移り、2013年6月に三日月衆議院議員を中心に法案を再度練り直し、議員立法として提出。第185臨時国会の衆議院国土交通委員会において自民案と両案を審議され、最終的には、両案における大きな相違点はないため、議員立法「交通基本法」(民主・社民提出)を撤回、政府提出「交通政策基本法」に賛成のうえ、附帯決議をつけて11月27日、参議院本会議において可決、成立した。



国会審議に臨む三日月衆議院議員(当時)

が開業するまで財源の見通しがなく、このままでは開業が2040年代半ばにずれ込むことから、財源の確保と早期の建設、開業を求めています。

京都鉄道博物館開業・「トワイライトエクスプレス」瑞風運行開始
このほか、2016年4月29日には京都鉄道博物館が開業したほか、2017年6月17日には、2015年3月で運行を終了した「トワイライトエクスプレス」の伝統を引き継ぐ豪華寝台列車「トワイライトエクスプレス」が瑞風が運行を開始しました。

いづれもJR西労組組合員がプロジェクトに関わったほか、現在も運営、運行に携わっています。

しかし、敦賀・新大阪間は、現時点、2030年度末に北海道新幹線



新幹線開業に伴い、北陸本線は「えちごトキメキ鉄道」「あいの風富山鉄道」「IRいしかわ鉄道の第三セクター3社に移管され、約360名の組合員が出向し運行に携わることになりました。

ベトナム鉄道労組と「友好連帯合意書」締結

JR西労組は、民間の立場から他国との友好、信頼を深めるとも

に、組合員の国際的な視野を広げて運動の充実に活かすことを目的に、職場の各級関係の役員らが参加して海外の鉄道労組を訪問する国際連帯活動



ベトナム鉄道労働組合との友好連帯合意書に署名を行う前田執行委員長(当時)

の訪問は23回目となりました。その中でも、わが国との関係が深まるベトナムには10回訪問し、ベトナム鉄道労組との信頼を高めています。こうした中で、2013年の日本ベトナム国交樹立40周年の「日越友好年」にあたり、10月にはハイナイにてベトナム鉄道労組との間で「友好連帯合意書」を締結し、相互に信頼関係のいっそうの強化を図ることを確認しました。

JR西労組結成25周年の取り組み

2015年7月の第27回定期大会で決定した運動方針に基づき、本部は「JR西労組結成25周年委員会」を設置し、先輩や関係者の特別講演、ロゴマークの募集、歴史を振り返る機関紙特集号の発行などの取り組みを進めてきました。

JR西労組「次代の運動方針」
2017年6月

2015年7月の第27回定期大会で決定した運動方針に基づき、本部は「JR西労組結成25周年委員会」を設置し、先輩や関係者の特別講演、ロゴマークの募集、歴史を振り返る機関紙特集号の発行などの取り組みを進めてきました。

次代の運動方針

また、続いて開催した「記念する集い」には、JR西日本連合労使など来賓を招き、総勢870名で25周年を祝いました。

翌年2017年7月5日、7日にホテルグランヴィア岡山で開催された第29回定期中央本部大会では、結成25周年の意義と次代の運動方針を基調に有意義な議論が交わされましたが、代議員の85%をJR入社世代が占めるなど、運動の継承を印象づける機会となりました。